

時津町小中学生の平和に関するアンケート 報告書

時津町企画財政課

令和4年3月

目 次

【Ⅰ. アンケート実施について】

- 1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. アンケート実施日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【Ⅱ. 集計結果】

- 1. あなたのことにについて教えてください・・・・・・・・ 2

- 2. 次のできごとの年月日と時間を教えてください
 - (1) 広島への原爆投下・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (2) 長崎への原爆投下・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (3) 第二次世界大戦(太平洋戦争)終戦・・・・・・・・・・・・ 9

- 3. 原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがありますか・・・ 1 2
「ある」と答えた人は、どこで聞きましたか・・・・・・・・ 1 3

- 4. 原爆資料館を見学したことがありますか・・・・・・・・ 1 5
「ある」と答えた人は、いつ見学しましたか・・・・・・・・ 1 6

- 5. あなたの学校に「被爆クスノキ2世」が
植えられていることを知っていますか・・・・・・・・ 1 8

【Ⅲ. 個別項目】

- 1. 「広島への原爆投下」項目別回答状況・・・・・・・・ 2 0
- 2. 「長崎への原爆投下」項目別回答状況・・・・・・・・ 2 1
- 3. 「終戦日」項目別回答状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 2
- 4. 質問別 完全正答率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

【Ⅳ. 調査結果のまとめと今後の取り組み】

- 1. 調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5
- 2. 今後の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6

I. アンケート実施について

1. 目的

- (1) 被爆・終戦から 76 年が経過し、被爆・戦争体験を持つ人の高齢化に伴い、今後ますます体験を聞く機会が少なくなると思われる中、時津町の子どもたちの平和に関する意識等について調査する。
- (2) アンケートに回答することで、子どもたちに「平和」「戦争」「原爆」について考える機会としてもらう。
- (3) 子どもたちの意識の変化について把握する必要があることから、3年ごとに継続して同様の調査を行う。

以上のことを目的とし、町立小中学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施した。本アンケートは、平成 18 年度に「被爆体験 DVD」を製作するにあたり、時津町の子どもたちの平和に関する意識調査を実施したことをきっかけに始まり、今回で 5 回目の実施となる。

これまでの実施状況は下記のとおり。

	実施期間	対象	回答数(人)		
			小学校	中学校	総数
第 1 回	平成 19 年 3 月	町立小学校 4 校・中学校 2 校 の児童・生徒 (調査実施日に欠席した児童・生徒を除く)	1,844	769	2,613
第 2 回	平成 25 年 2 月		1,775	891	2,666
第 3 回	平成 27 年 6 月		1,758	842	2,600
第 4 回	平成 30 年 9 月		1,720	839	2,559
第 5 回	令和 3 年 9 月		1,657	792	2,449

設問項目については、子どもたちの意識の変化について把握するため、同内容の調査を継続して行っている。

なお、これまでの実施状況を見てみると実施月にばらつきがあるため、今後は、児童・生徒の意識が高い時期であること、協力をお願いする学校が実施しやすい時期であることから、9月に統一して行うこととする。

2. アンケート実施日

令和 3 年 9 月 1 日～30 日

3. 対象

時津町立小中学校の児童・生徒（小学校 4 校，中学校 2 校）

※アンケート調査実施日に欠席した児童・生徒を除く。

Ⅱ. 集計結果

1. あなたのことについて教えてください。

町立学校6校（小学校4校、中学校2校）の児童・生徒、計2,449人がアンケートに回答した。

【令和3年度】

(単位:人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	124	127	156	142	167	139	143	146	129	1,273
女	163	129	122	124	142	122	122	142	110	1,177
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449

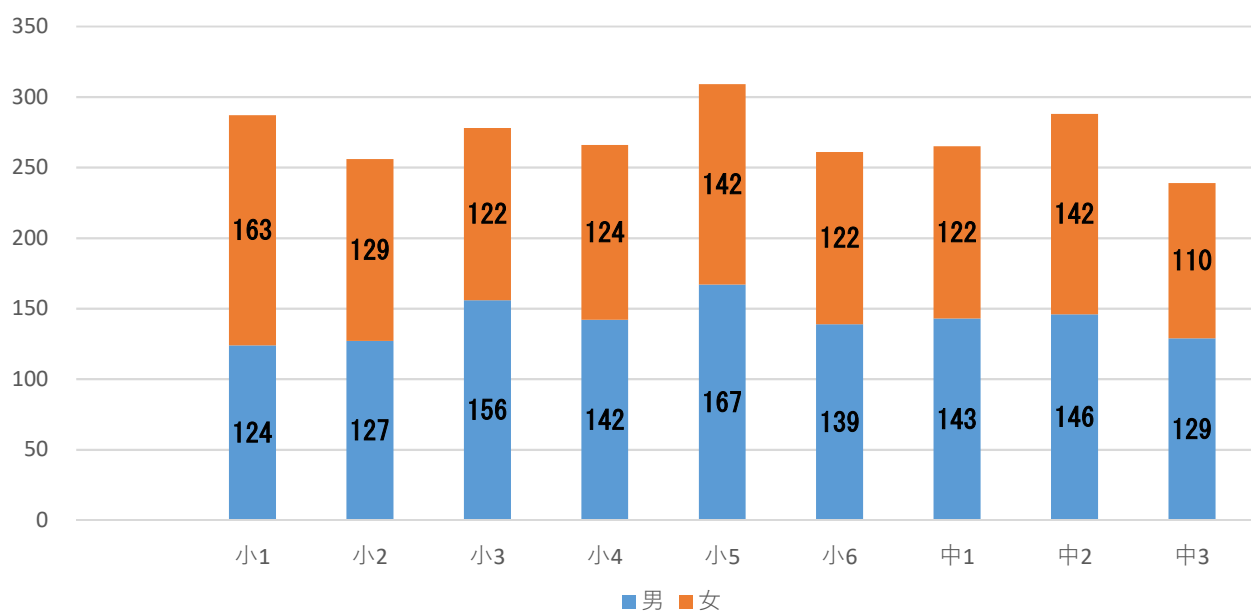
【平成30年度】

(単位:人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	150	164	143	156	163	137	131	155	148	1,347
女	120	140	125	140	154	128	143	136	126	1,212
計	270	304	268	296	317	265	274	291	274	2,559

【令和3年度】

人数



2. 次のできごとの年月日と時間を答えてください。

(1) 広島への原爆投下

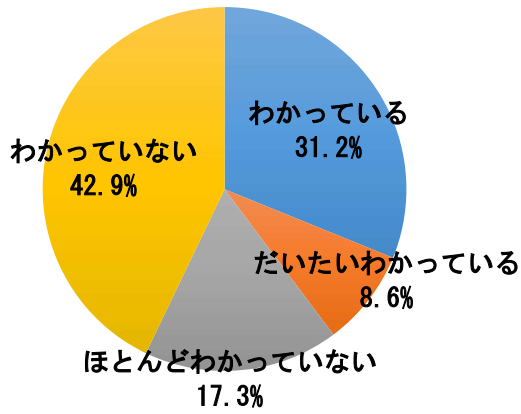
広島に原子爆弾が投下された年月日と時間について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっていない」「わかっていない」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

広島への原爆投下日時：1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分

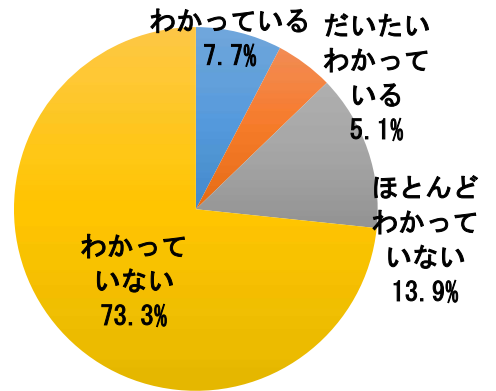
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日、時間正答	0	24	9	19	37	47	75	130	165	506
	0.0	9.4	3.2	7.1	12.0	18.0	28.3	45.1	69.0	20.7
年月日正答	16	11	3	21	25	52	53	38	38	257
	5.6	4.3	1.1	7.9	8.1	19.9	20.0	13.2	15.9	10.5
わかっている	16	35	12	40	62	99	128	168	203	763
	5.6	13.7	4.3	15.0	20.1	37.9	48.3	58.3	84.9	31.2
月日、時間正答	7	7	12	15	37	17	18	17	6	136
	2.4	2.7	4.3	5.6	12.0	6.5	6.8	5.9	2.5	5.6
月日のみ正答	3	4	9	14	5	14	10	12	4	75
	1.1	1.6	3.2	5.3	1.6	5.4	3.8	4.2	1.7	3.1
だいたいわかっている	10	11	21	29	42	31	28	29	10	211
	3.5	4.3	7.5	10.9	13.6	11.9	10.6	10.1	4.2	8.6
年、時間正答	31	33	29	47	67	48	45	38	9	347
	10.8	12.9	10.4	17.7	21.7	18.4	17.0	13.2	3.8	14.2
年のみ正答	0	3	1	2	3	8	3	9	1	30
	0.0	1.2	0.4	0.8	1.0	3.1	1.1	3.1	0.4	1.2
時間のみ正答	3	6	8	6	10	2	5	8	0	48
	1.1	2.3	2.9	2.3	3.2	0.8	1.9	2.8	0.0	2.0
ほとんどわかっていない	34	42	38	55	80	58	53	55	10	425
	11.8	16.4	13.7	20.7	25.9	22.2	20.0	19.1	4.2	17.3
不正解（無回答）	227	168	207	142	125	73	56	36	16	1,050
	79.4	65.6	74.5	53.4	40.4	28.0	21.1	12.5	6.7	42.9
わかっていない	227	168	207	142	125	73	56	36	16	1,050
	79.1	65.6	74.5	53.4	40.4	28.0	21.1	12.5	6.7	42.9
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

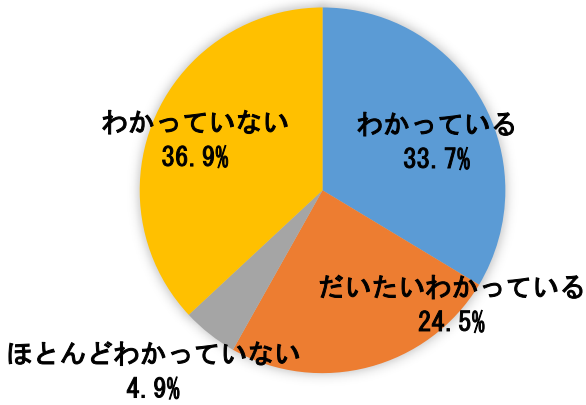
令和3年度 全体



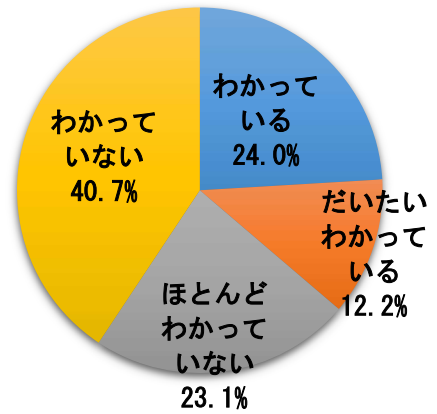
令和3年度 小学1～3年生



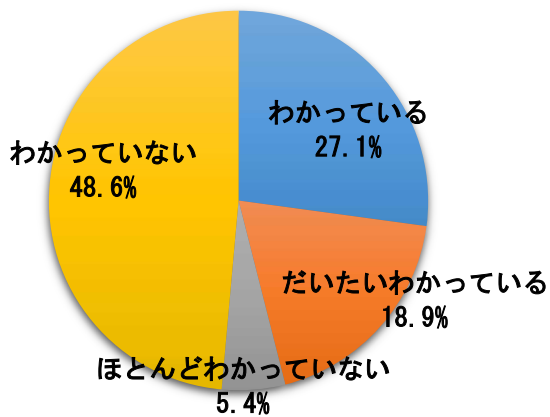
平成30年度 全体



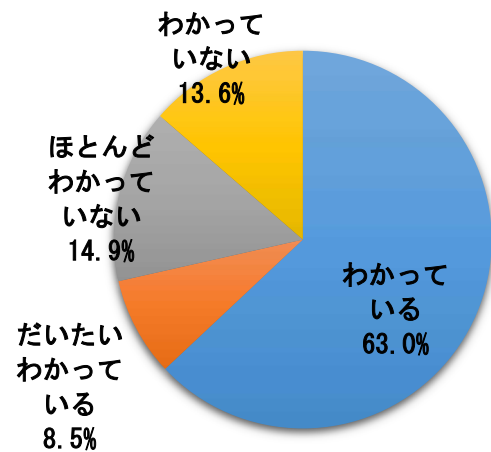
令和3年度 小学4～6年生



平成27年度 全体



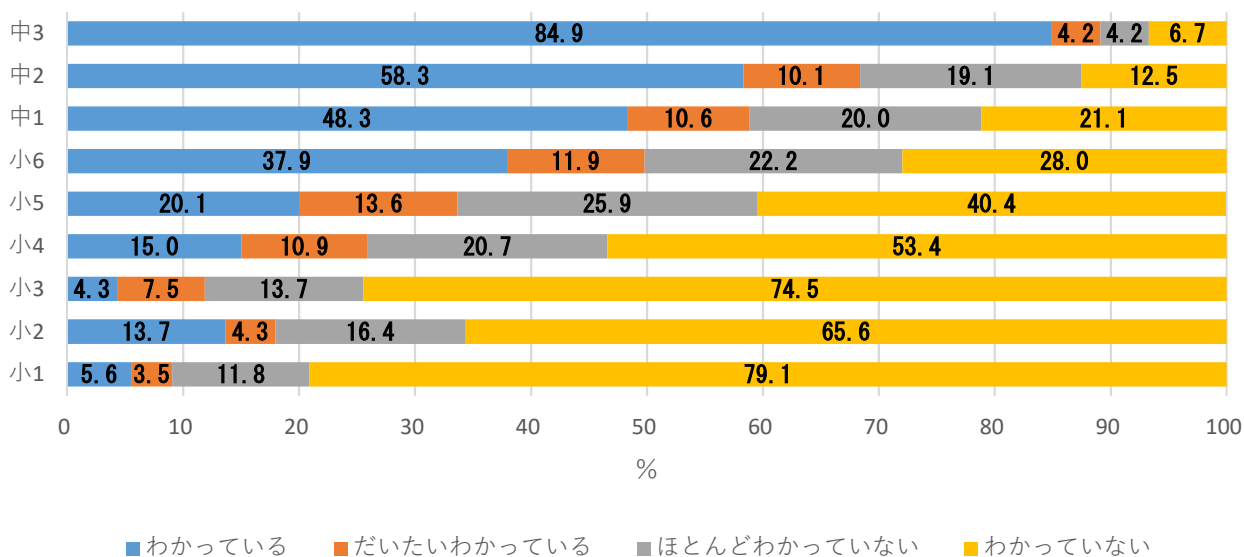
令和3年度 中学1～3年生



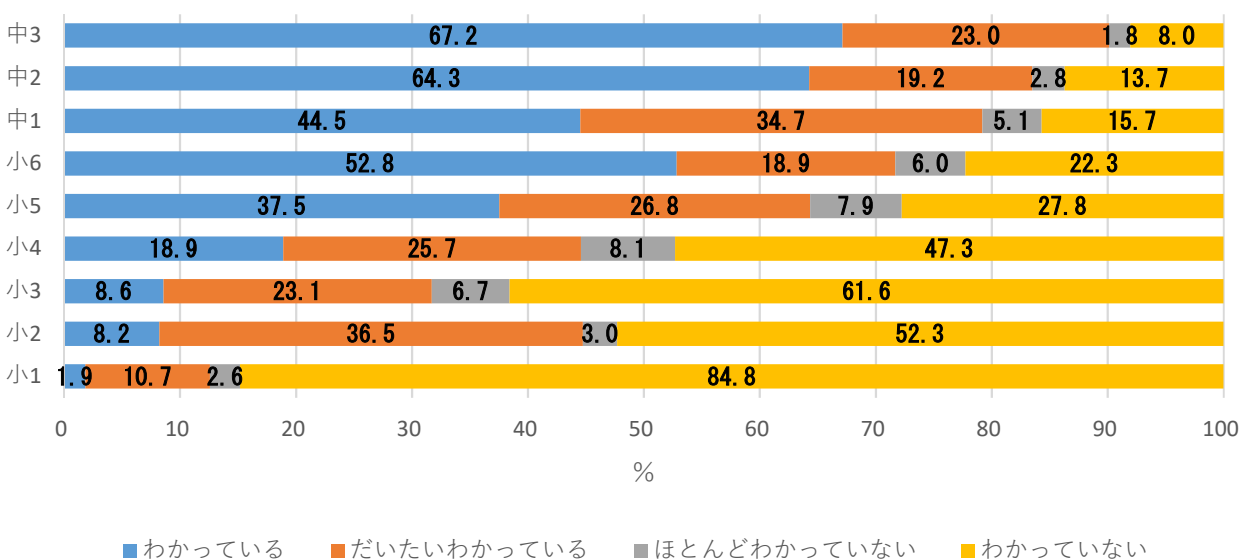
広島に原子爆弾が投下された年月日と時間について、「年月日」を正答した人（わかっている）が全体の31.2%、「月日」が答えられた人（だいたいわかっている）は全体の8.6%、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の42.9%であった。平成27年度と比較すると、「わかっている」人の比率が高くなっているが、平成30年度と比較すると低くなっている。

学年区分ごとの結果を見ると、小学1～3年生では正答率が低いものの、中学生になると「わかっている」「だいたいわかっている」人が79.8%と高い比率になっている。

令和3年度



平成30年度



学年ごとに見ると「わかっている」「だいたいわかっている」人の比率は、中学3年生と小学1年生については、平成30年度を上回る結果となったが、それ以外は下回る結果となった。

(2) 長崎への原爆投下

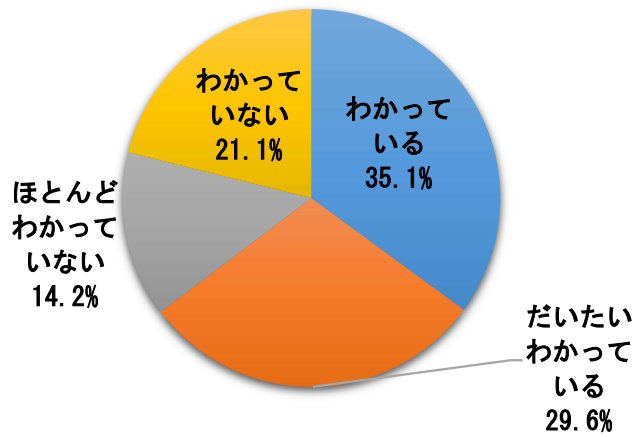
長崎に原子爆弾が投下された年月日と時間について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっていない」「わかっていない」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

長崎への原爆投下日時：1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分

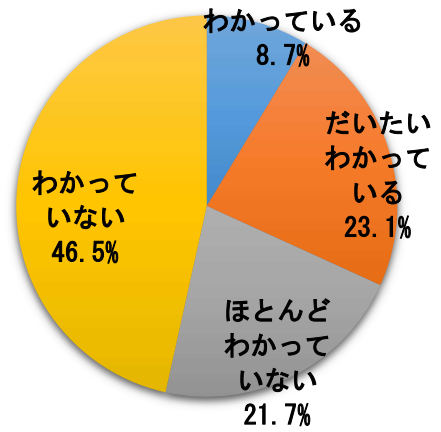
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日、時間正答	15	31	15	48	74	116	135	184	187	805
	5.2	12.1	5.4	18.1	24.0	44.4	50.9	63.9	78.2	32.9
年月日正答	3	1	6	9	5	9	3	4	14	54
	1.1	0.4	2.2	3.4	1.6	3.5	1.1	1.4	5.9	2.2
わかっている	18	32	21	57	79	125	138	188	201	859
	6.3	12.5	7.6	21.4	25.6	47.9	52.0	65.3	84.1	35.1
月日、時間正答	27	63	92	99	151	98	92	65	20	707
	9.4	24.6	33.1	37.2	48.9	37.6	34.7	22.6	8.4	28.9
月日のみ正答	1	2	5	4	1	1	1	2	1	18
	0.4	0.8	1.8	1.5	0.3	0.4	0.4	0.7	0.4	0.7
だいたいわかっている	28	65	97	103	152	99	93	67	21	725
	9.7	25.4	34.9	38.7	49.2	37.9	35.1	23.2	8.8	29.6
年、時間正答	52	19	25	30	32	11	7	11	3	190
	18.1	7.4	9.0	11.3	10.4	4.2	2.6	3.8	1.3	7.8
年のみ正答	0	2	1	6	3	2	2	1	4	21
	0.0	0.8	0.4	2.3	1.0	0.8	0.8	0.4	1.7	0.9
時間のみ正答	20	24	35	12	16	8	10	9	3	137
	7.0	9.4	12.6	4.5	5.2	3.1	3.8	3.1	1.3	5.6
ほとんどわかっていない	72	45	61	48	51	21	19	21	10	348
	25.1	17.6	21.9	18.1	16.5	8.1	7.2	7.3	4.2	14.2
不正解（無回答）	169	114	99	58	27	16	15	12	7	517
	58.9	44.5	35.6	21.8	8.7	6.1	5.7	4.2	4.2	21.1
わかっていない	169	114	99	58	27	16	15	12	7	517
	58.9	44.5	35.6	21.8	8.7	6.1	5.7	4.2	2.9	21.1
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

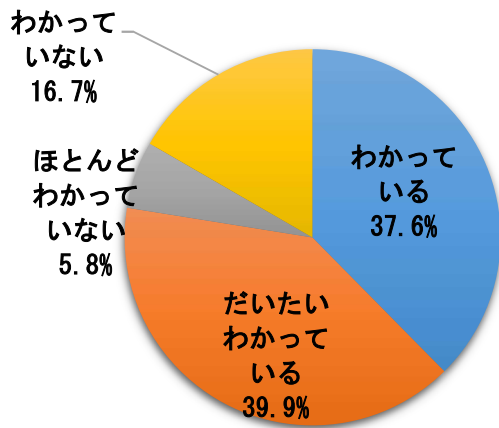
令和3年度 全体



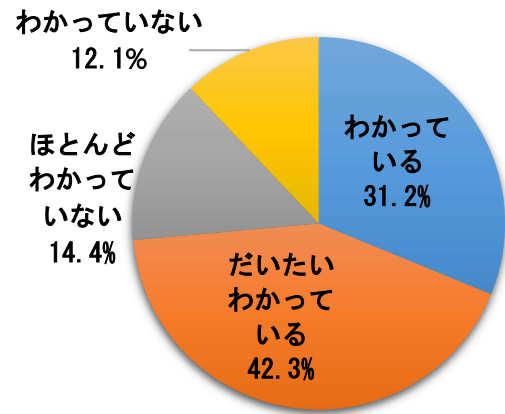
令和3年度 小学1～3年生



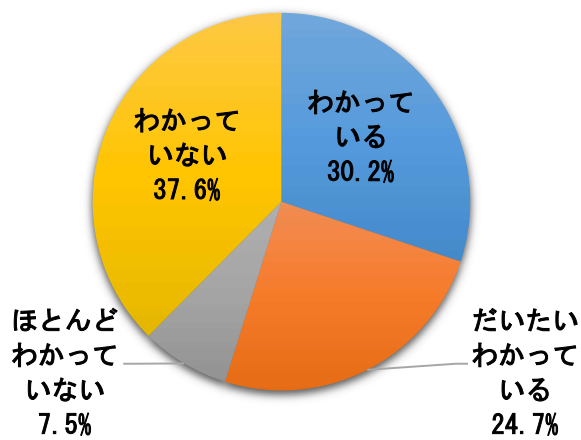
平成30年度 全体



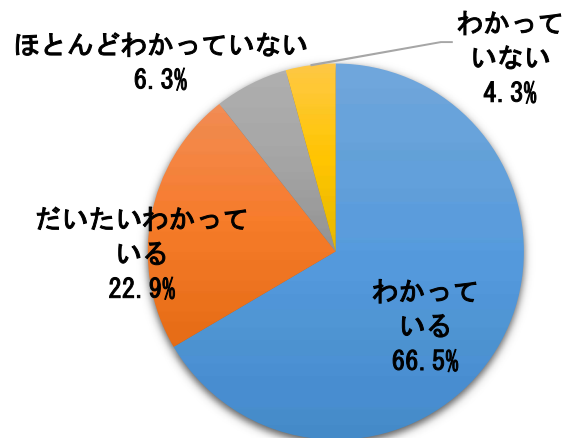
令和3年度 小学4～6年生



平成27年度 全体



令和3年度 中学1～3年生

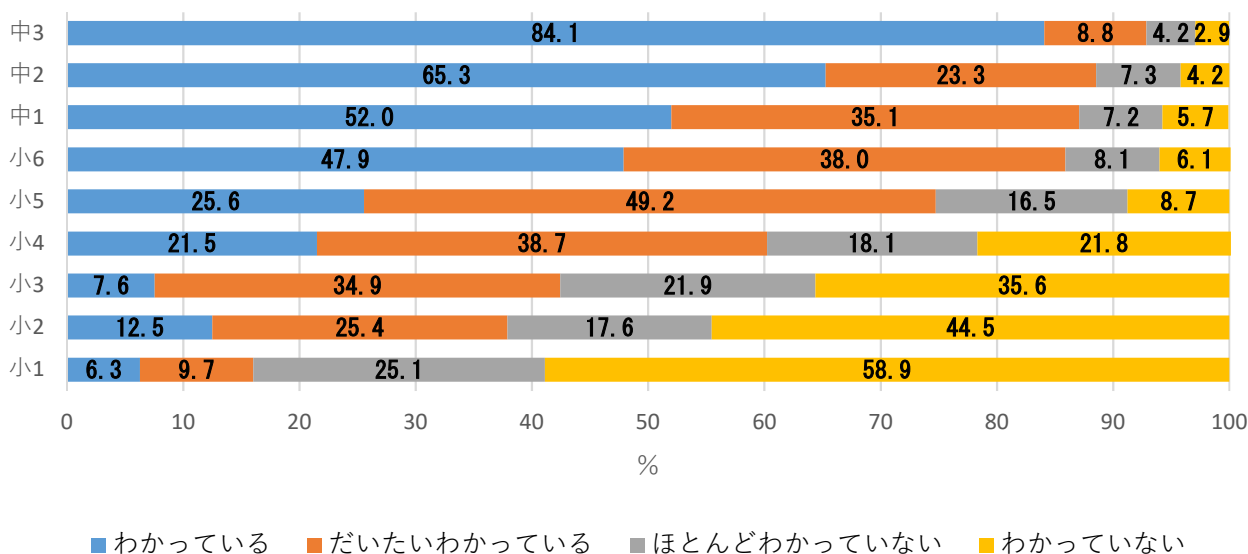


長崎に原子爆弾が投下された年月日と時間について、「年月日」を正答した人

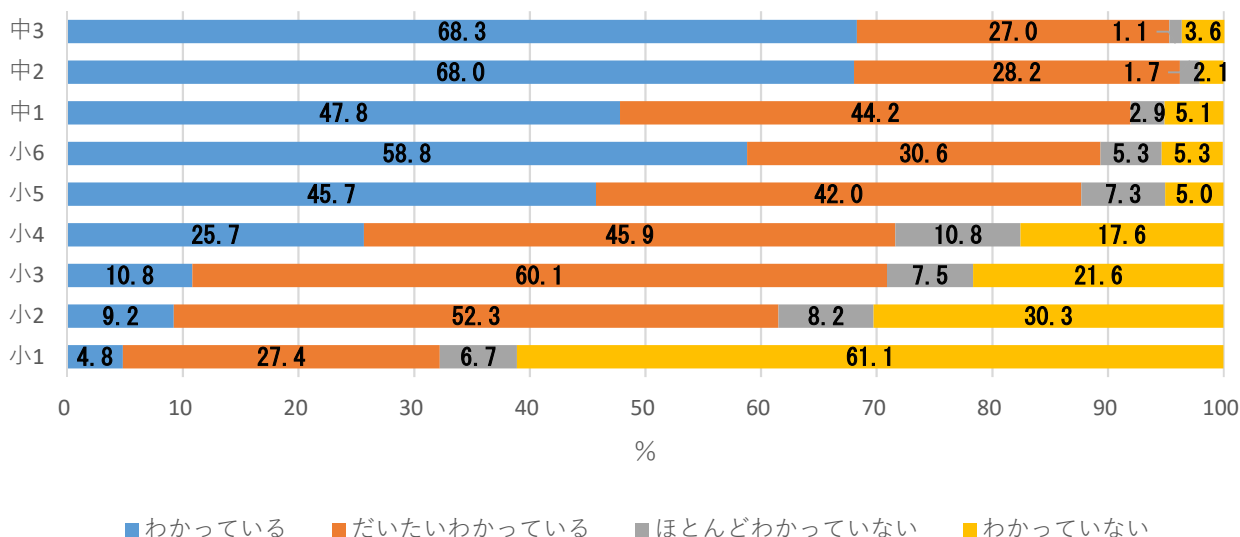
（「わかっている」）が全体の 35.1%、「月日」が答えられた人（「だいたいわかっている」）は全体の 29.6%となり、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の 21.1%であった。地元の長崎に関することであるため、広島の前爆投下に関する設問と比較すると高い正答率になっている。平成 27 年度と比較すると、「わかっている」と「だいたいわかっている」がそれぞれ約 5%と正答率が上がっている。

学年区分ごとの結果を見ると、「わかっている」「だいたいわかっている」人が、小学 4～6 年生では 73.5%、中学生では 89.4%と高い比率になっている。

令和3年度



平成30年度



学年ごとに見ると、「わかっている」人の比率は、中学 2 年生と小学 3～6 年生を除き、平成 30 年度を上回る結果となった。

(3) 第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦

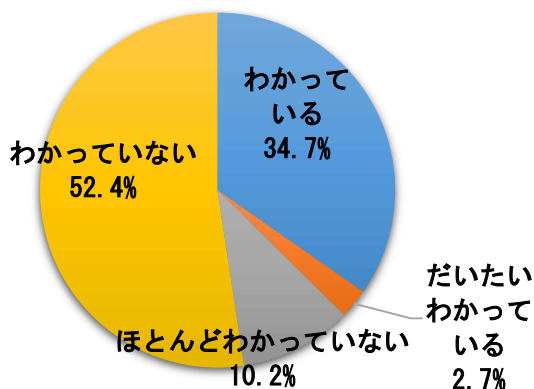
第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦年月日について、回答内容を「わかっている」「だいたいわかっている」「ほとんどわかっていない」「わかっていない」の4区分に分け、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

第二次世界大戦（太平洋戦争）終戦年月日：1945年（昭和20年）8月15日

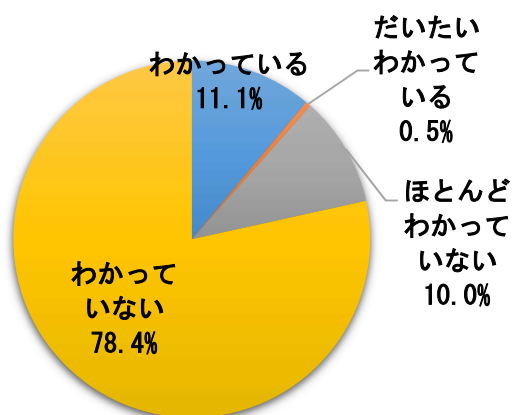
（上段：人数、下段：％）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
年月日正答	0	30	6	15	37	66	95	153	192	594
	0.0	11.7	2.2	5.6	12.0	25.2	35.9	53.1	80.3	24.2
月日正答	4	41	10	19	58	31	49	34	10	256
	1.4	16.0	3.6	7.1	18.8	11.8	18.5	11.8	4.2	10.5
わかっている	4	71	16	34	95	97	144	187	202	850
	1.4	27.7	5.8	12.7	30.7	37.2	54.3	64.9	84.5	34.7
年月正答	0	0	4	8	5	17	13	15	4	66
	0.0	0.0	1.4	3.0	1.6	6.5	4.9	5.2	1.7	2.7
だいたいわかっている	0	0	4	8	5	17	13	15	4	66
	0.0	0.0	1.4	3.0	1.6	6.5	4.9	5.2	1.7	2.7
年日正答	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.1
年のみ正答	1	2	2	4	3	6	3	4	2	27
	0.4	0.8	0.7	1.5	1.0	2.3	1.1	1.4	0.8	1.1
月のみ正答	22	28	26	34	35	30	14	14	3	206
	7.7	10.9	9.4	12.8	11.3	11.5	5.3	4.9	1.3	8.4
日のみ正答	1	0	0	2	3	4	2	4	0	16
	0.4	0.0	0.0	0.8	1.0	1.5	0.8	1.4	0.0	0.7
ほとんどわかっていない	24	30	28	40	41	40	20	23	5	251
	8.4	11.7	10.1	15.1	13.3	15.3	7.6	8.0	2.1	10.2
不正解（無回答）	259	155	230	184	168	107	88	63	28	1,283
	90.2	60.6	82.7	69.2	54.4	41.0	33.2	21.9	11.7	52.4
わかっていない	259	155	230	184	168	107	88	63	28	1,283
	90.2	60.6	82.7	69.2	54.4	41.0	33.2	21.9	11.7	52.4
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

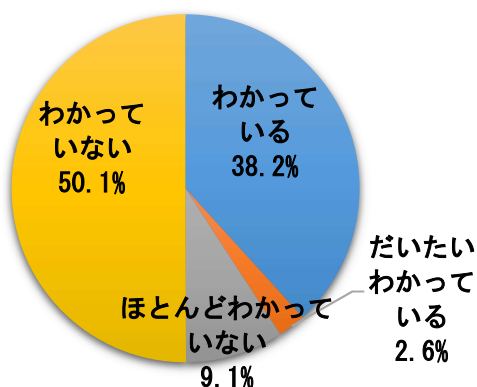
令和3年度 全体



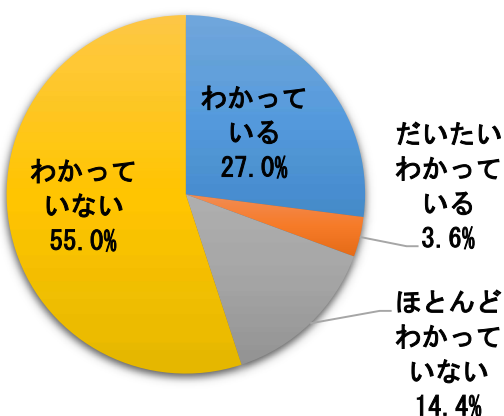
令和3年度 小学1～3年生



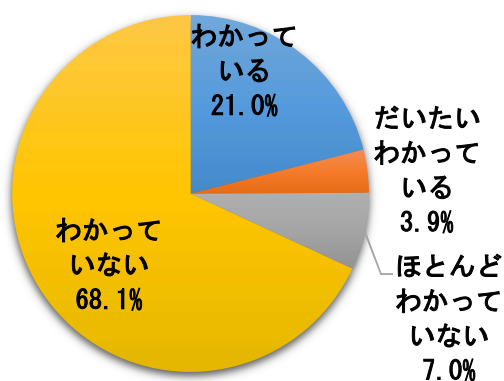
平成30年度 全体



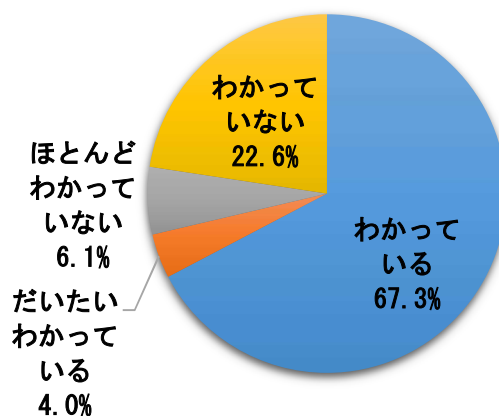
令和3年度 小学4～6年生



平成27年度 全体



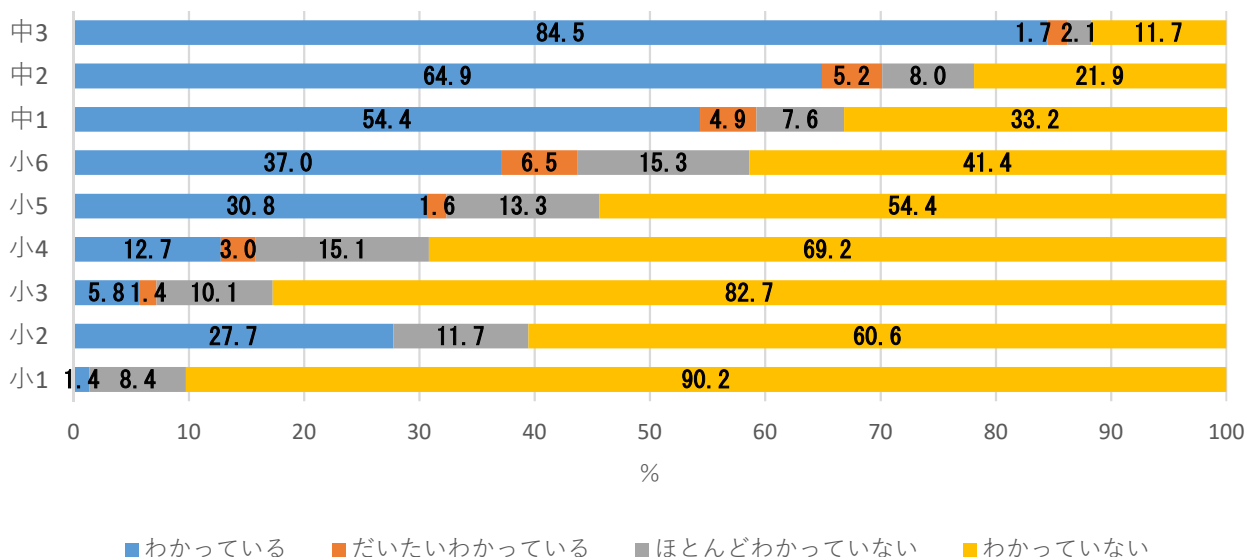
令和3年度 中学1～3年生



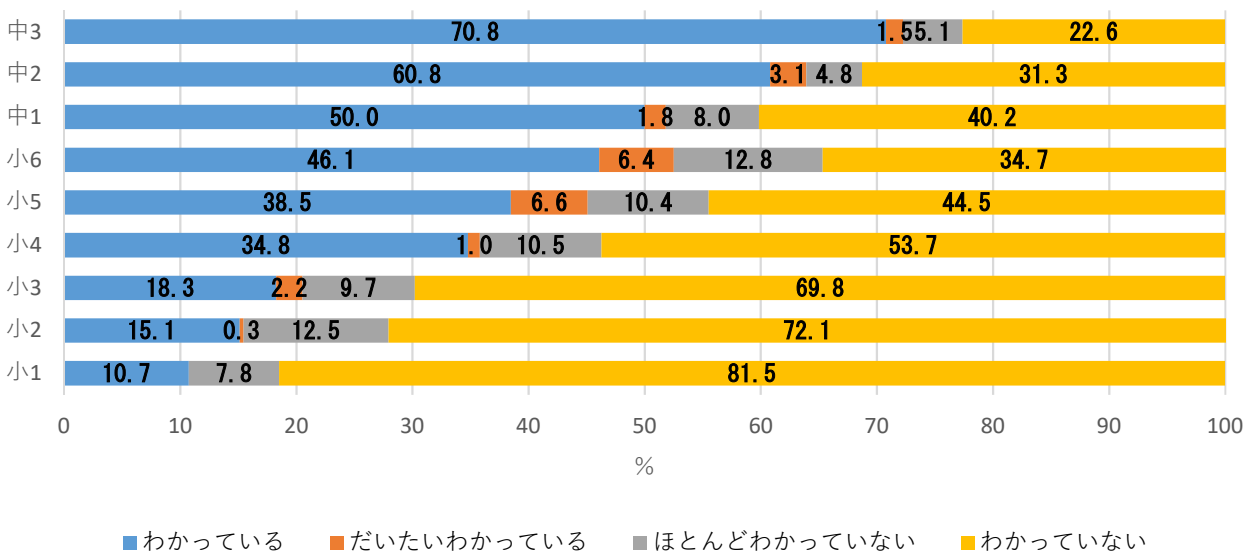
終戦の年月日について、「月日」が答えられた人（「わかっている」）が全体の34.7%に対し、「不正解・無回答（わかっていない）」が全体の52.4%となっている。平成30年度と比較すると、「わかっている」人の比率は約4%下がったが、平成27年度と比較すると、格段に上がっている。

学年区分ごとの結果を見ると、月日が答えられた人の割合は学年が上がるにつれ高くなっているが、広島や長崎への原爆投下についての正答率と比較すると、終戦日についての正答率が最も低く、広島や長崎に原爆が投下されたことは知っていても、戦争終結に至るまでの一連の出来事についてはあまり理解していないと思われる。

令和3年度



平成30年度



学年ごとに見ると、「わかっている」人の比率が、中学生と小学2年生は平成30年度を上回る結果となった。

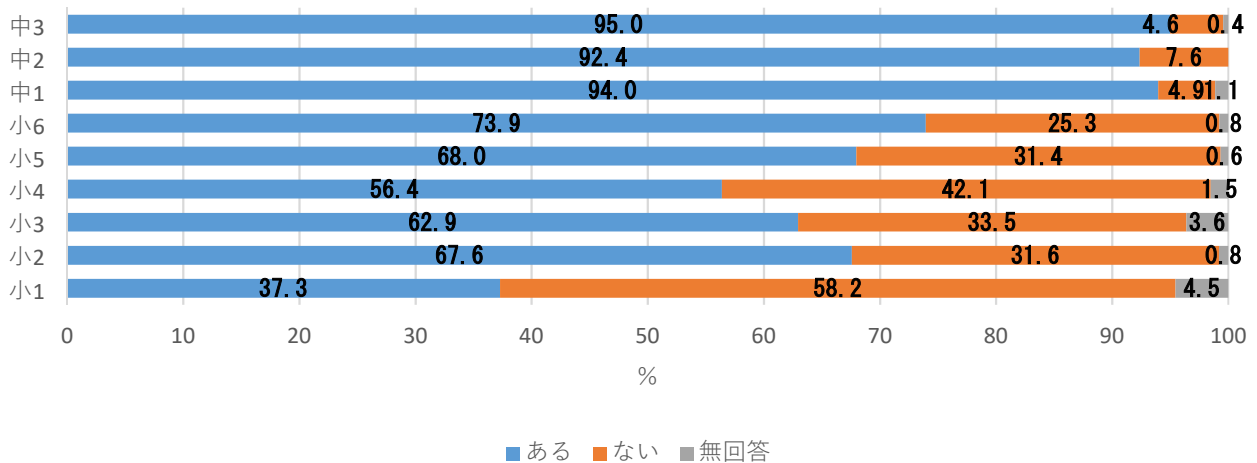
3. 原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがありますか。

原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことがあるかどうかの質問について、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

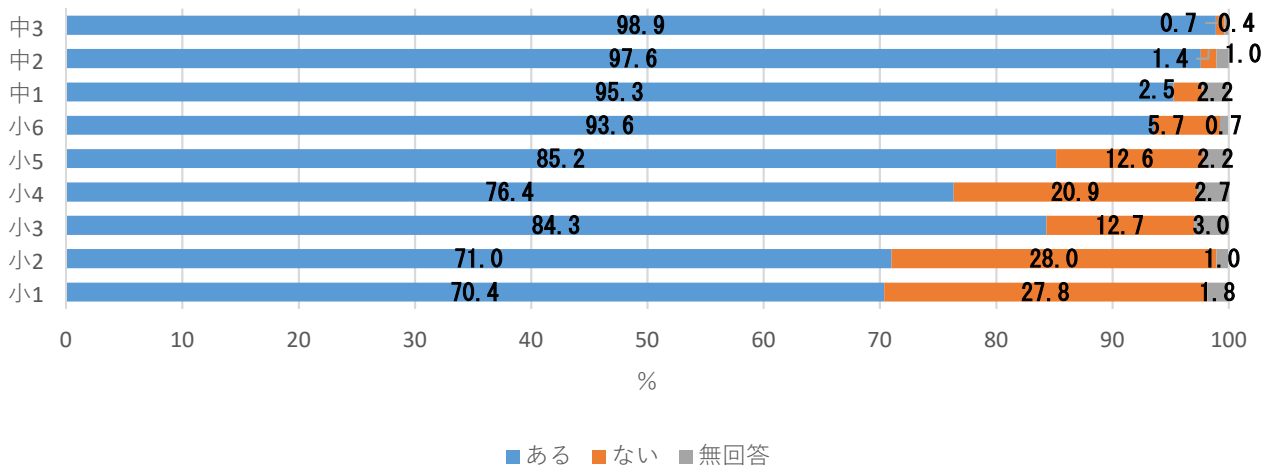
(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
ある	107	173	175	150	210	193	249	266	227	1,750
	37.3	67.6	62.9	56.4	68.0	73.9	94.0	92.4	95.0	71.5
ない	167	81	93	112	97	66	13	22	11	662
	58.2	31.6	33.5	42.1	31.4	25.3	4.9	7.6	4.6	27.0
無回答	13	2	10	4	2	2	3	0	1	37
	4.5	0.8	3.6	1.5	0.6	0.8	1.1	0.0	0.4	1.5
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

令和3年度

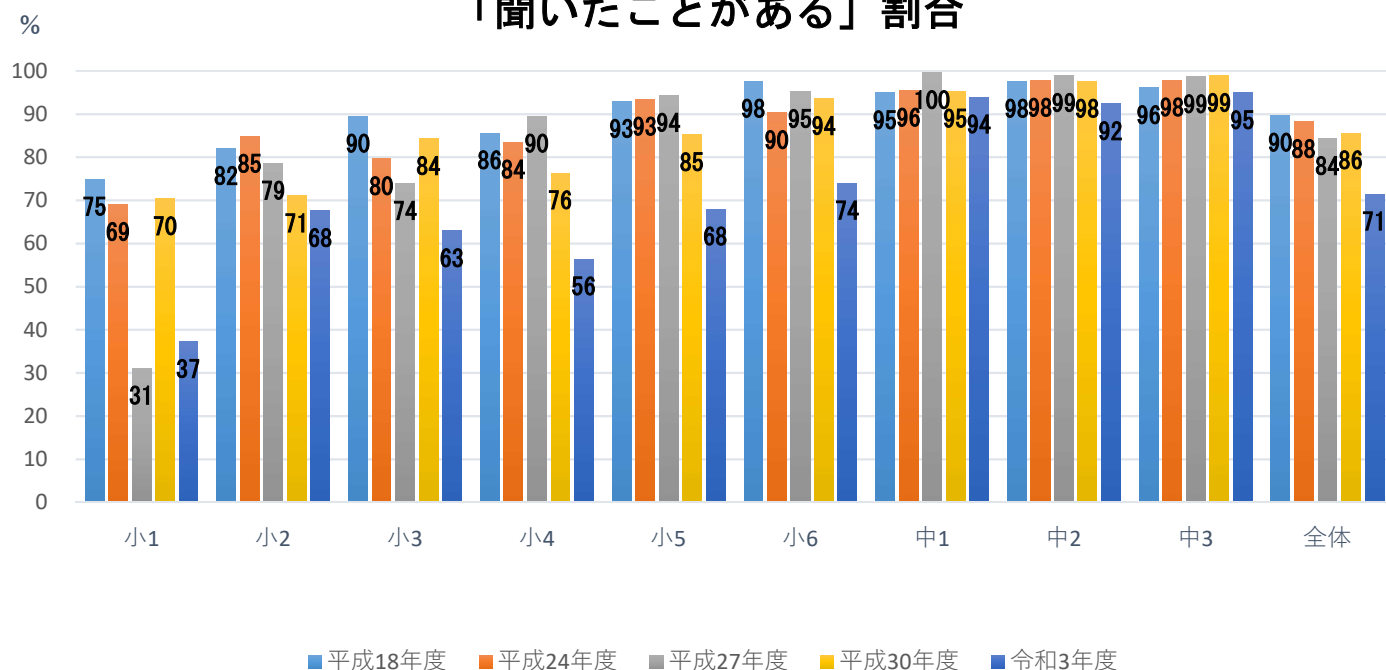


平成30年度



全体で71.5%の児童・生徒が「話を聞いたことがある」と回答している。学年ごとに平成30年度と比較すると、全ての学年で下回る結果となった。

「聞いたことがある」割合



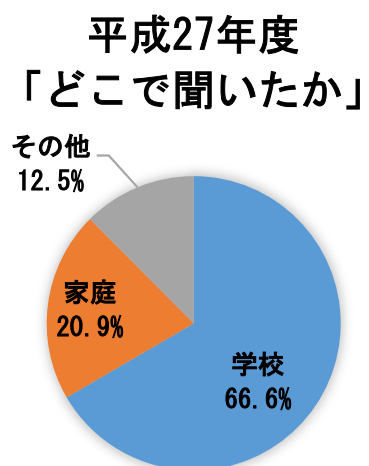
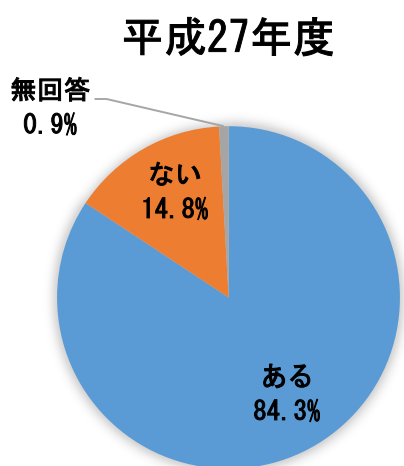
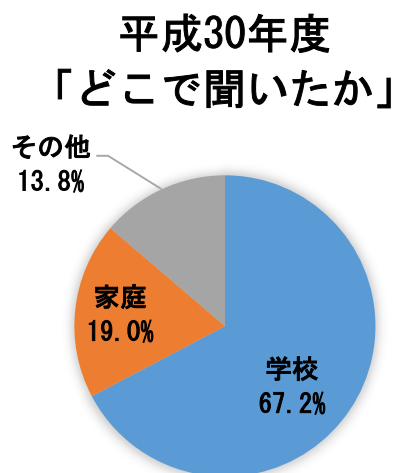
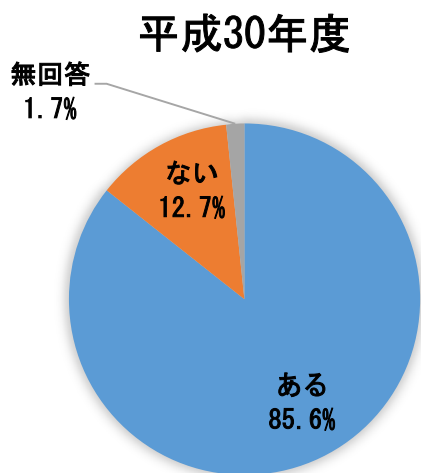
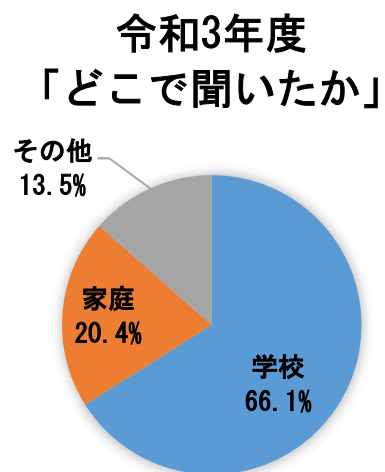
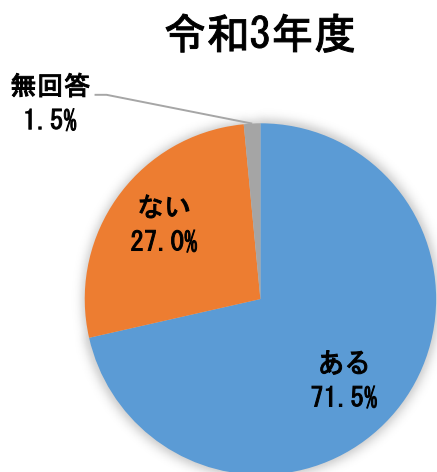
平成18年度調査からの推移を見ると、全体的に減少傾向にある。これは、身近に原爆被爆者が減っていることが原因の一つと考えられる。

「ある」と答えた人は、どこで聞きましたか。※複数回答

(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
学校	64	123	134	118	161	162	227	246	217	1,452
	63.4	54.2	60.6	57.3	55.3	66.1	76.4	73.2	79.2	66.1
家庭	31	78	47	55	77	50	35	46	29	448
	30.7	34.4	21.3	26.7	26.5	20.4	11.8	13.7	10.6	20.4
その他	6	26	40	33	53	33	35	44	28	298
	5.9	11.4	18.1	16.0	18.2	13.5	11.8	13.1	10.2	13.5
計	101	227	221	206	291	245	297	336	274	2,198
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

原爆被爆者から原爆や戦争についての話を聞いたことが「ある」と回答した児童・生徒のうち、66.1%が「学校」、20.4%が「家庭」、13.5%が「その他の場所」となっている。どの学年も「学校」で聞いた人が多くなっている。



過去の調査と比較をすると、「場所」による比率に大きな差はなかった。

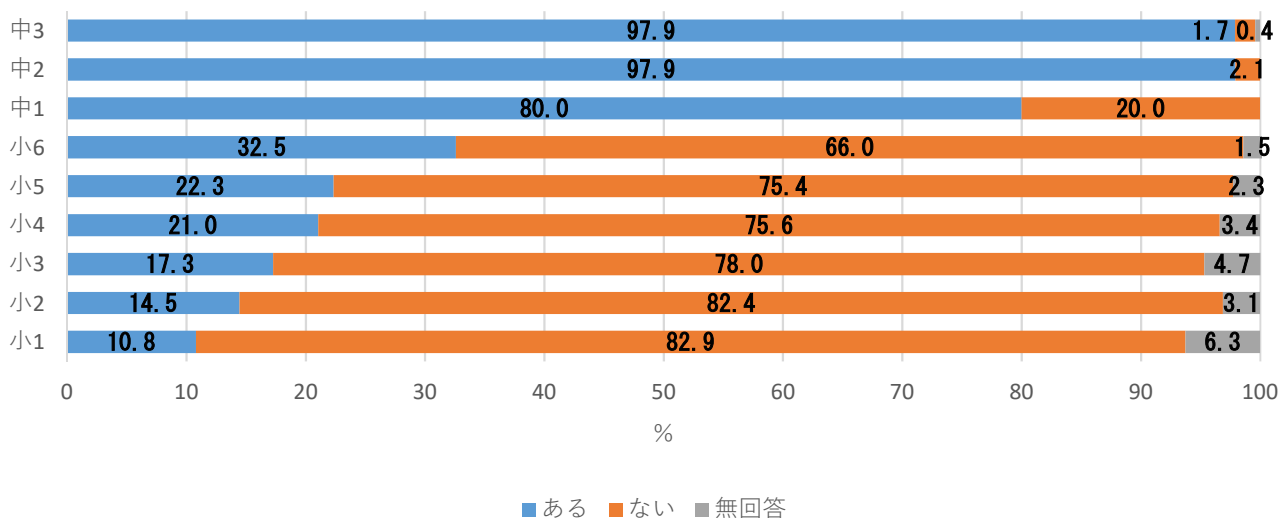
4. 原爆資料館を見学したことがありますか。

原爆資料館を見学したことがあるかどうかの質問について、学年ごとに集計したところ、次の結果となった。

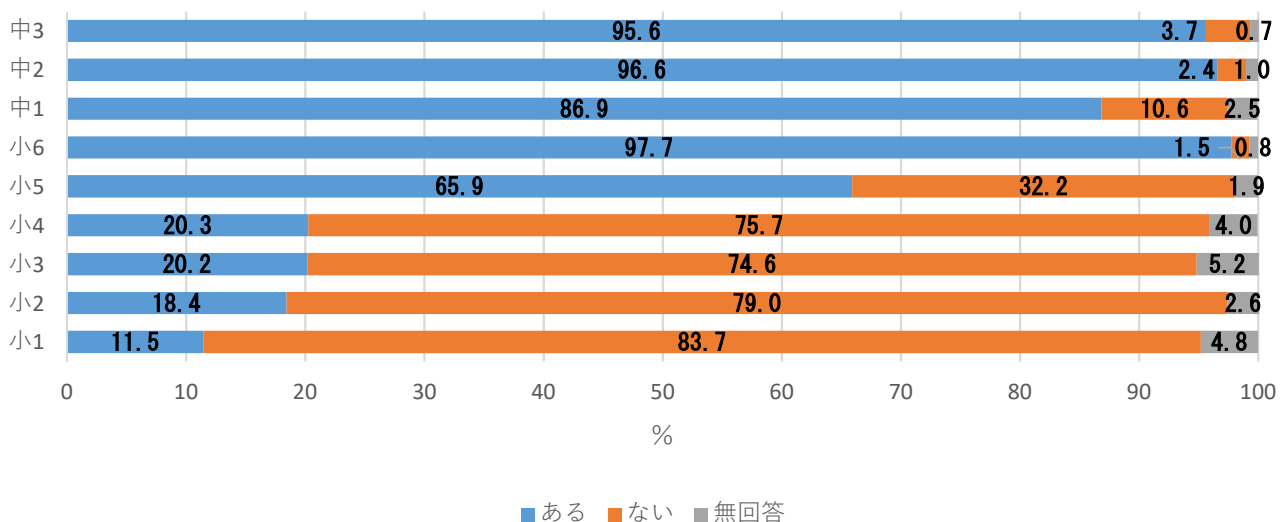
(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
ある	31	37	48	56	69	85	212	282	234	1,054
	10.8	14.5	17.3	21.0	22.3	32.5	80.0	97.9	97.9	43.0
ない	238	211	217	201	233	172	53	6	4	1,335
	82.9	82.4	78.0	75.6	75.4	66.0	20.0	2.1	1.7	54.5
無回答	18	8	13	9	7	4	0	0	1	60
	6.3	3.1	4.7	3.4	2.3	1.5	0.0	0.0	0.4	2.5
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

令和3年度

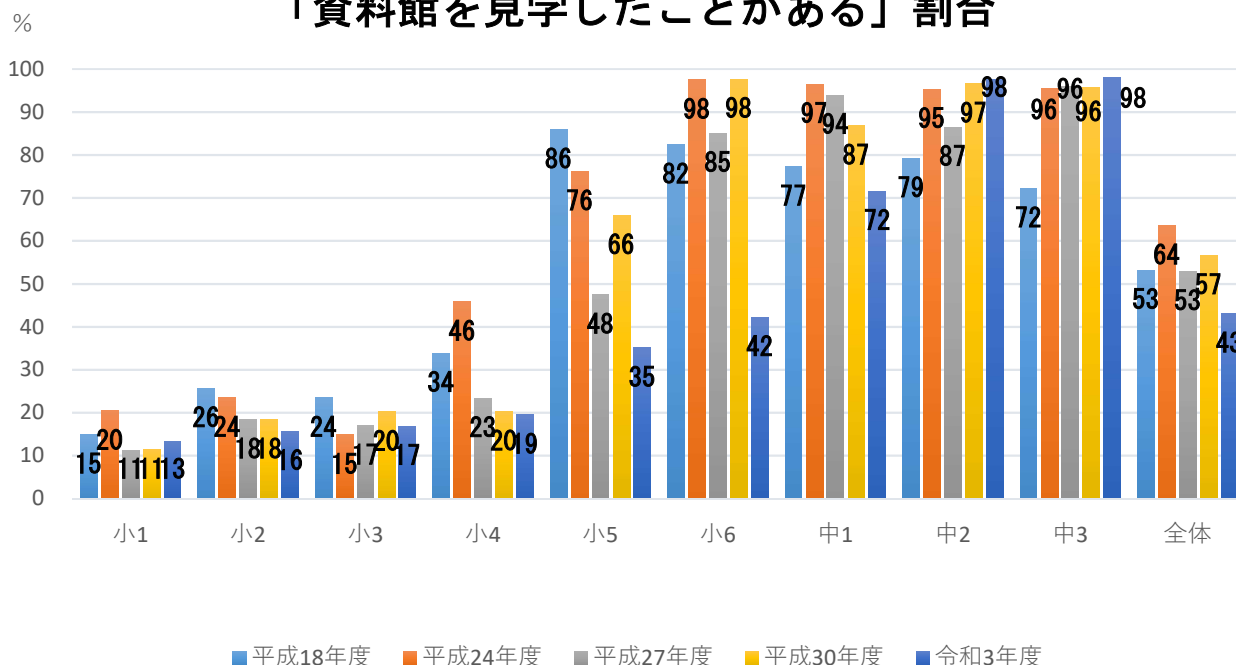


平成30年度



「原爆資料館を見学したことがある」と回答した児童・生徒は、全体で43.0%。学年が上がるにつれて、「ある」と答えた率が上がる傾向が見られ、中学2年生及び3年生が約98%と高い比率になっている。学年ごとに平成30年度と比較をすると、小学1年生と中学2～3年生が上がっているが、その他の学年は下がっている。

「資料館を見学したことがある」割合

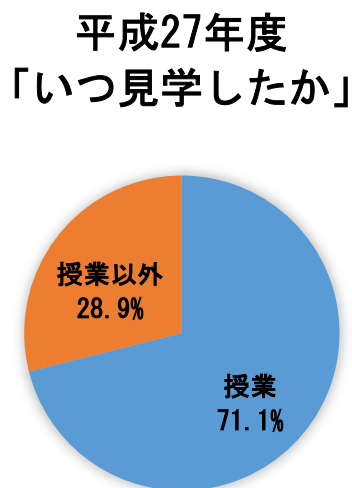
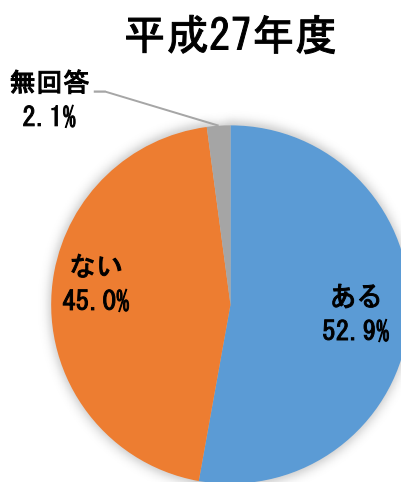
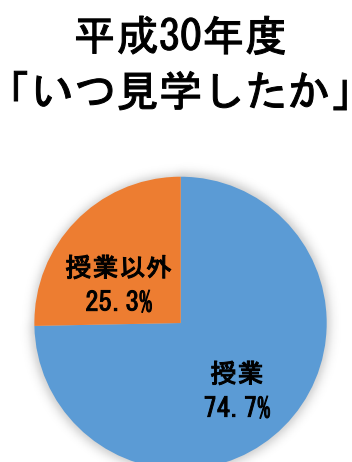
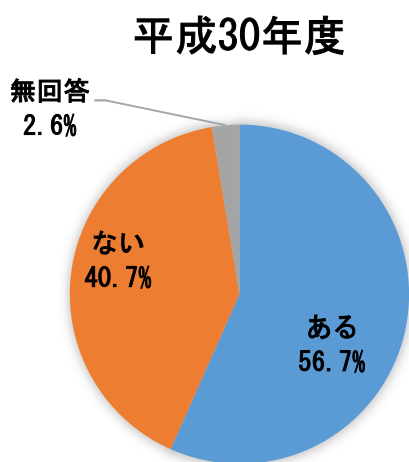
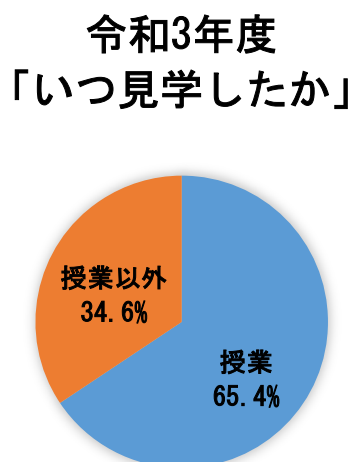
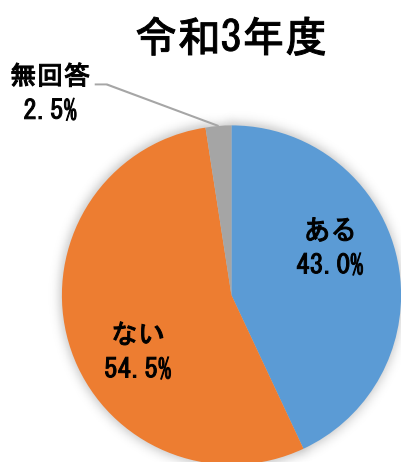


(「ある」と答えた人) いつ見学しましたか。 ※複数回答

(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
授業	1	6	13	7	14	29	193	269	224	756
	4.8	18.7	27.7	12.5	19.7	31.2	85.4	83.3	78.0	65.4
授業以外	20	26	34	49	57	64	33	54	63	400
	95.2	81.3	72.3	87.5	80.3	68.8	14.6	16.7	22.0	34.6
計	21	32	47	56	71	93	226	323	287	1,156
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

原爆資料館を見学したことが「ある」と回答した児童・生徒にいつ見学したのか質問したところ、65.4%が「授業」という結果となった。



過去の調査と比較すると、「授業以外」で見学したと答えた児童・生徒の割合が一番高い結果となった。小中学生への平和教育は、学校の授業に頼る部分が多いと言え、限られた時間の中での取り組みにも限界がある。こうした状況下での今回の結果は、今後の平和教育の在り方につながる大きな結果だと言える。

5. あなたの学校に「被爆クスノキ2世」が植えられていることを知っていますか？

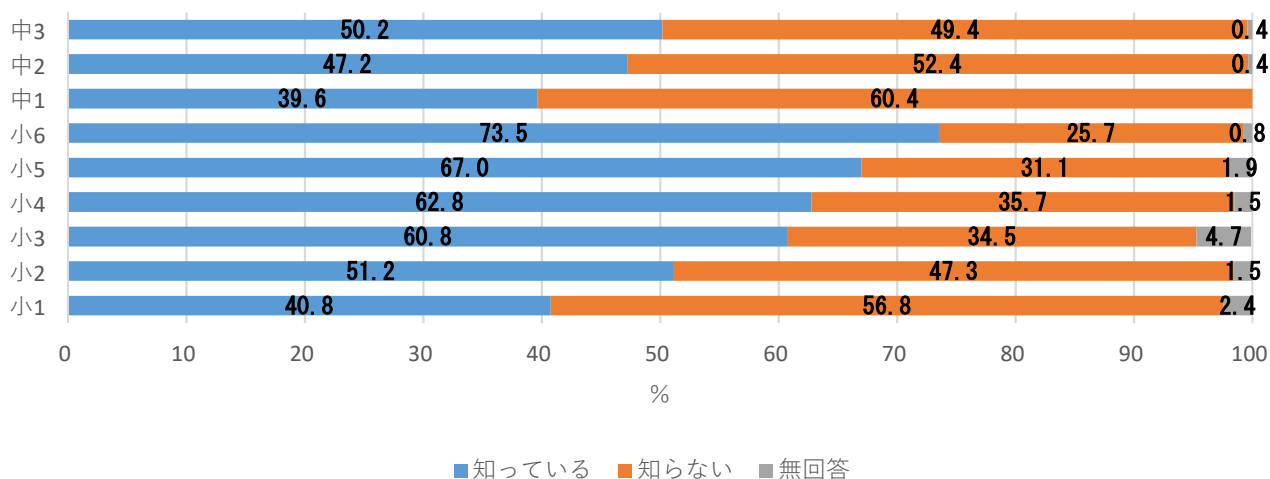
時津町は被爆地指定地域であり、町木は「クスノキ」（平成元年7月1日制定）であることから、町内の子どもたちに、原爆の悲惨さと生命の素晴らしさ、平和の大切さを伝え、併せて、ふるさと時津町への関心を持ってもらうことを目的として、平成15年、町立小中学校、町立保育所、文化の森公園に「被爆クスノキ2世」の植樹を行った。平成29年度には、老朽化した案内看板の建て替えを行っている。

この「被爆クスノキ2世」について、校内に植えられていることを知っているかどうかの質問を行ったところ、次の結果となった。

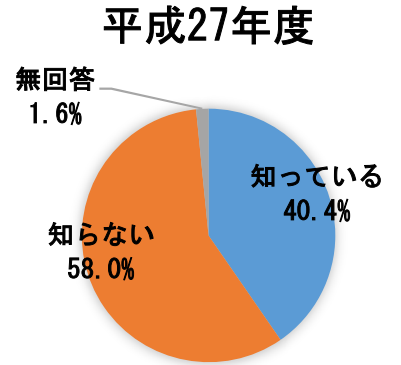
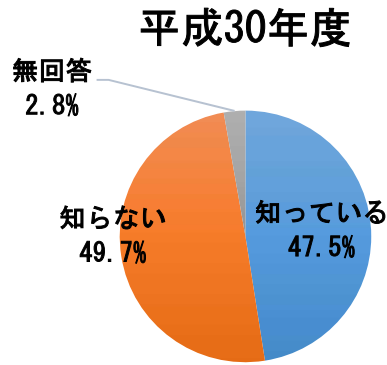
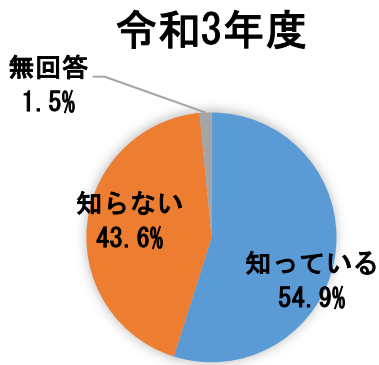
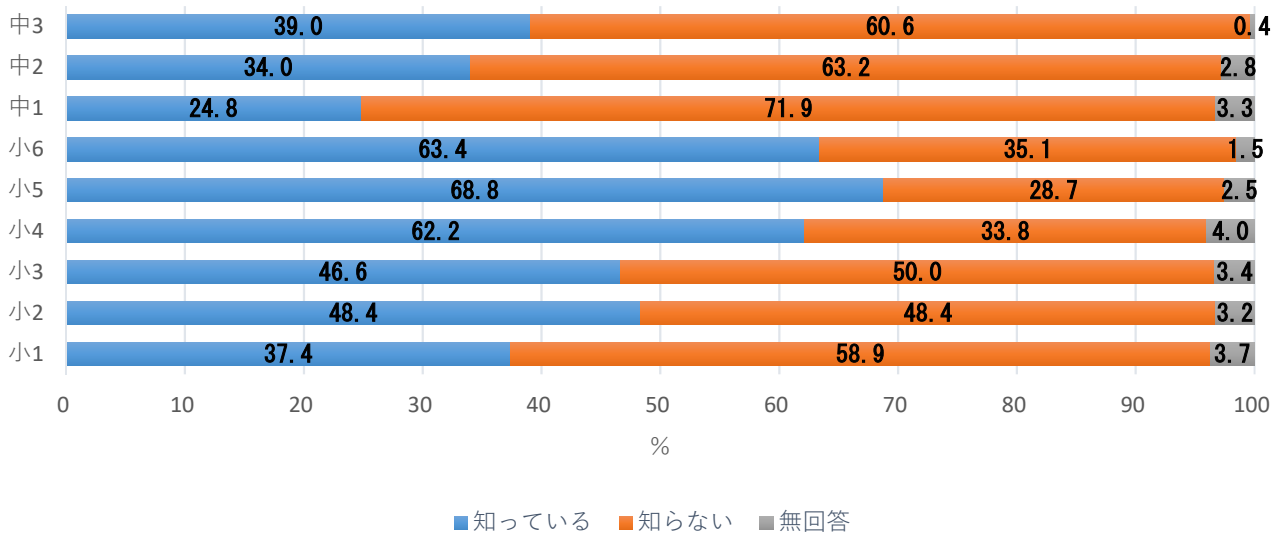
(上段：人数、下段：%)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
知っている	117	131	169	167	207	192	105	136	120	1,344
	40.8	51.2	60.8	62.8	67.0	73.5	39.6	47.2	50.2	54.9
知らない	163	121	96	95	96	67	160	151	118	1,067
	56.8	47.3	34.5	35.7	31.1	25.7	60.4	52.4	49.4	43.6
無回答	7	4	13	4	6	2	0	1	1	38
	2.4	1.5	4.7	1.5	1.9	0.8	0.0	0.4	0.4	1.5
計	287	256	278	266	309	261	265	288	239	2,449
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

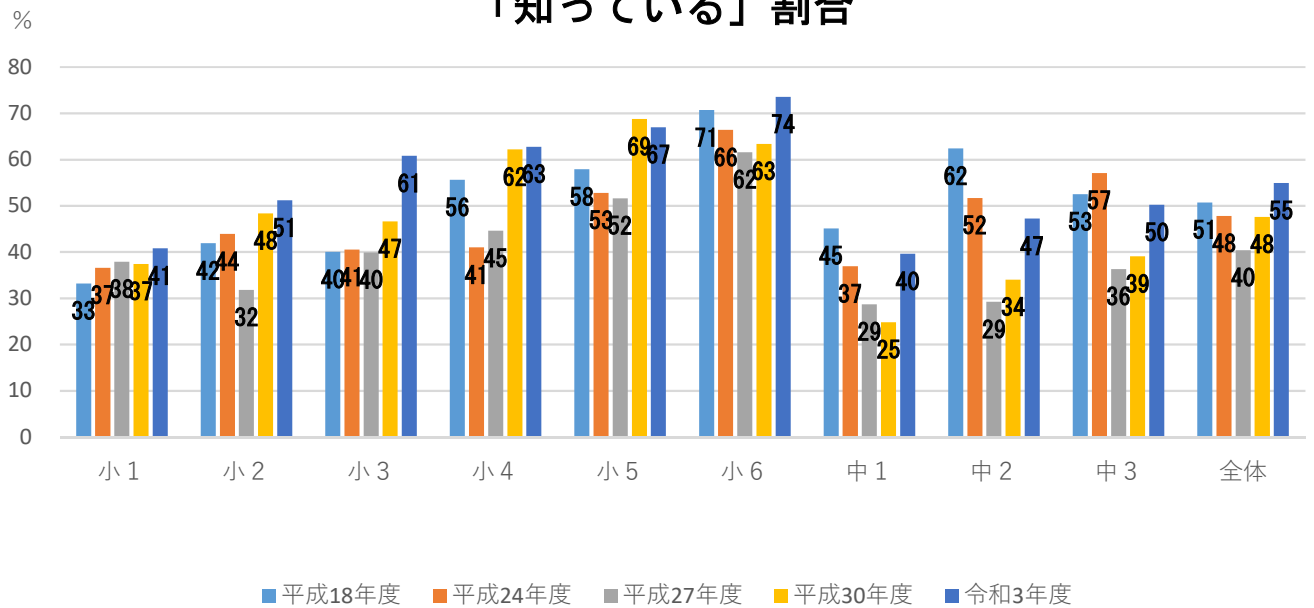
令和3年度



平成30年度



「知っている」割合



平成15年に植樹に立ち会った児童・生徒が在籍した平成18年度を上回り、学年ごとに見ると、小学2～6年生が過半数を超える結果となった。

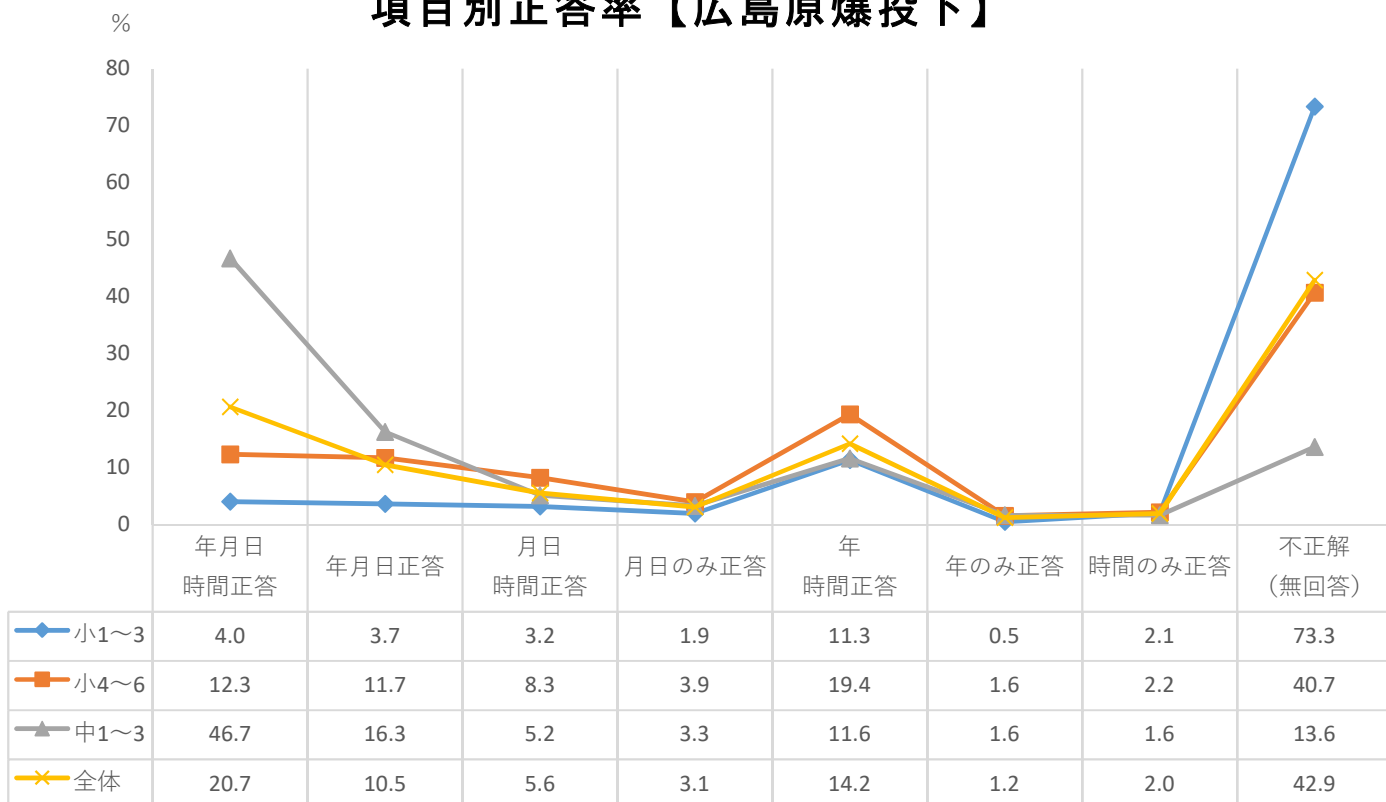
Ⅲ. 個別項目

1. 「広島への原爆投下」項目別回答状況

「広島への原爆投下」項目別回答状況についての結果は次のとおり。

広島への原爆投下に関しては、不正解(無回答)を除き、「年月日、時間」の正答率が最も高いものの、「年」または「時間」にかかる正答率は落ち込む傾向にある。月日は知っていても投下された「年」または「時間」が答えられていないことが読み取れる。

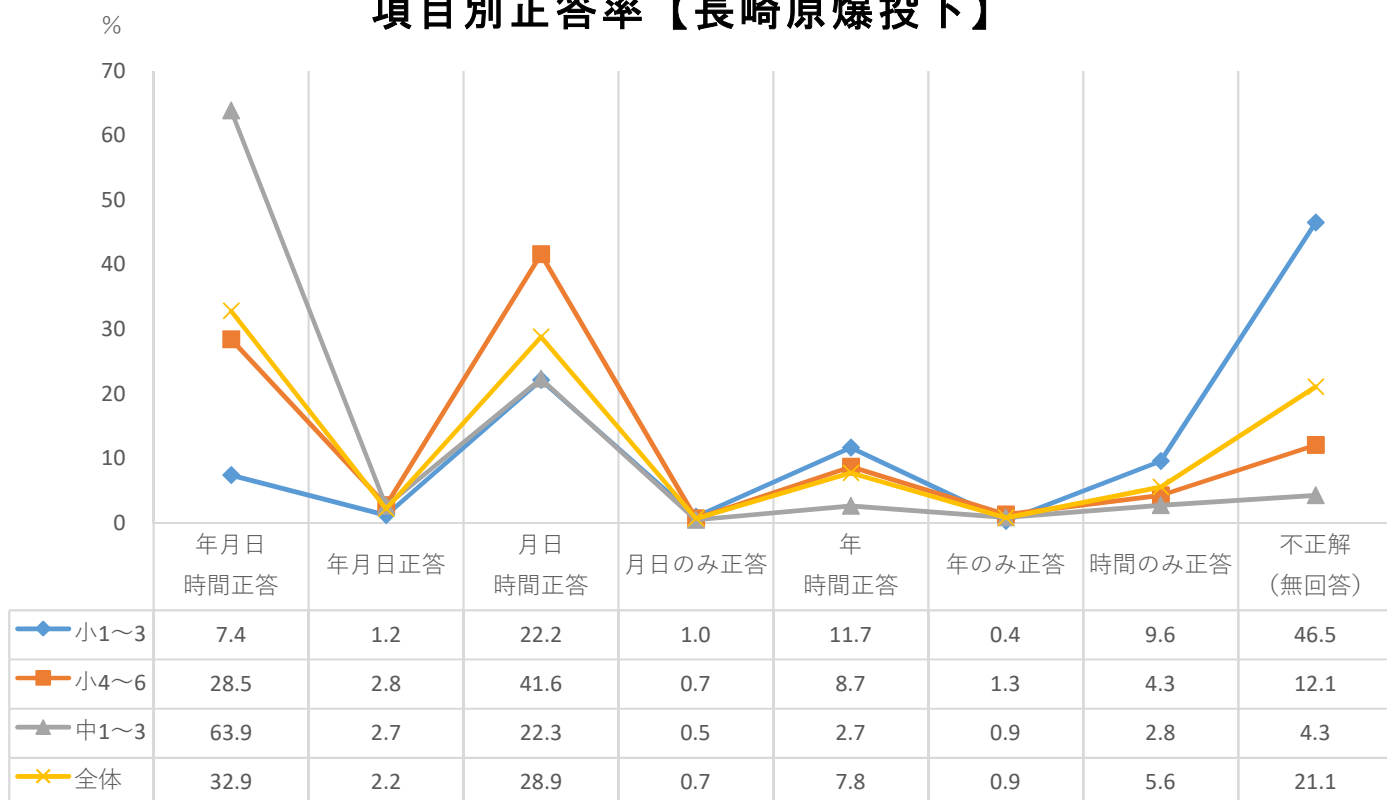
項目別正答率【広島原爆投下】



2. 「長崎への原爆投下」項目別回答状況

「長崎への原爆投下」項目別回答状況についての結果は次のとおり。

項目別正答率【長崎原爆投下】



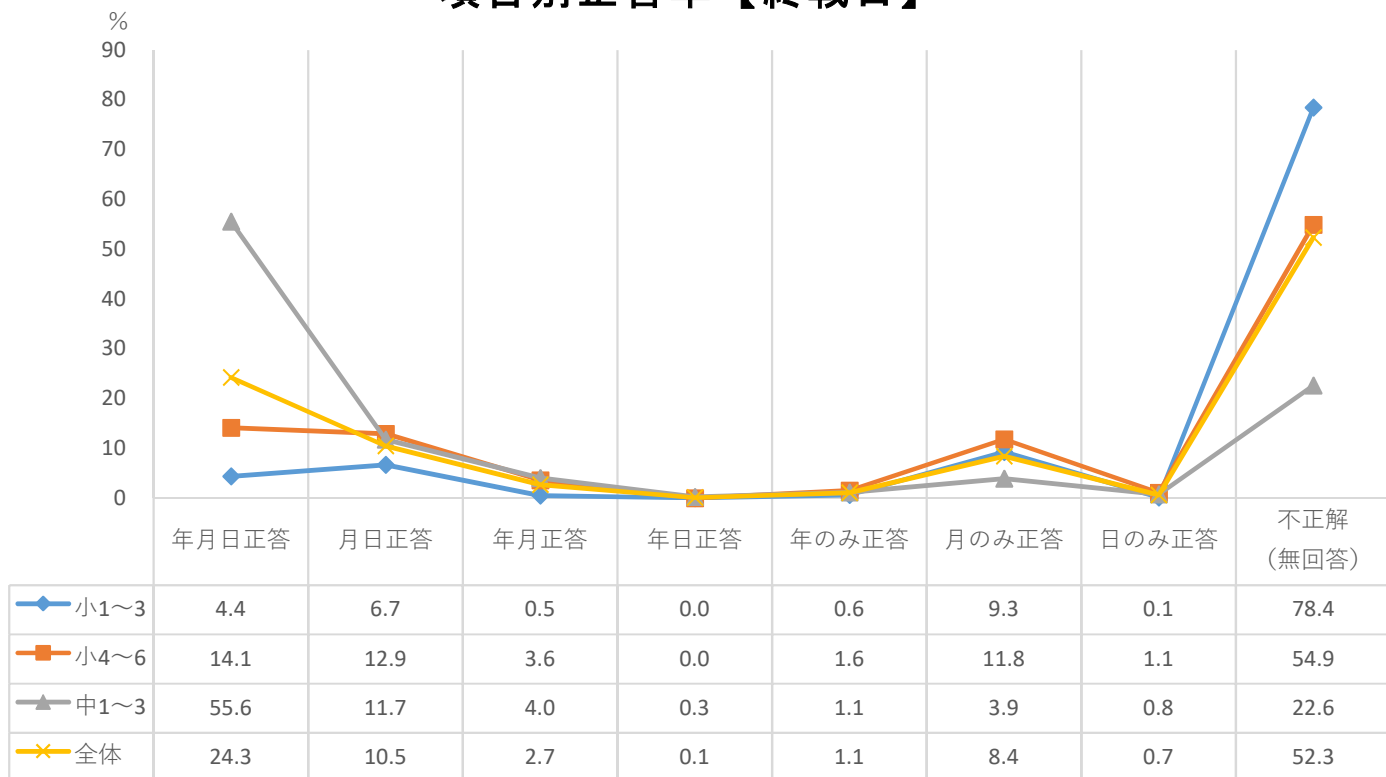
長崎への原爆投下に関しては、「年月日、時間」「月日、時間」について多くの児童・生徒が回答できている一方で、特に小学1～3年生までの児童の「不正解（無回答）」の比率が高いことがわかる。

また、長崎への原爆投下日時である8月9日11時2分は覚えているが、昭和20年や1945年が回答できていない傾向にある。特に小学生の正答率が低いのは、平和教育の場などで「戦後76年」や「被爆から76年」というワードは多く使われるものの、それが具体的に何時なのかに結び付いていないことが要因の一つと考えられる。

3. 「終戦日」項目別回答状況

「第二次世界大戦（太平洋戦争）終了」項目別回答状況についての結果は次のとおり。

項目別正答率【終戦日】



終戦日に関しては、広島・長崎への原爆投下日と比較すると、不正解（無回答）の割合が高く、第二次世界大戦と原爆投下が関連付けられていない人が多いことが言える。

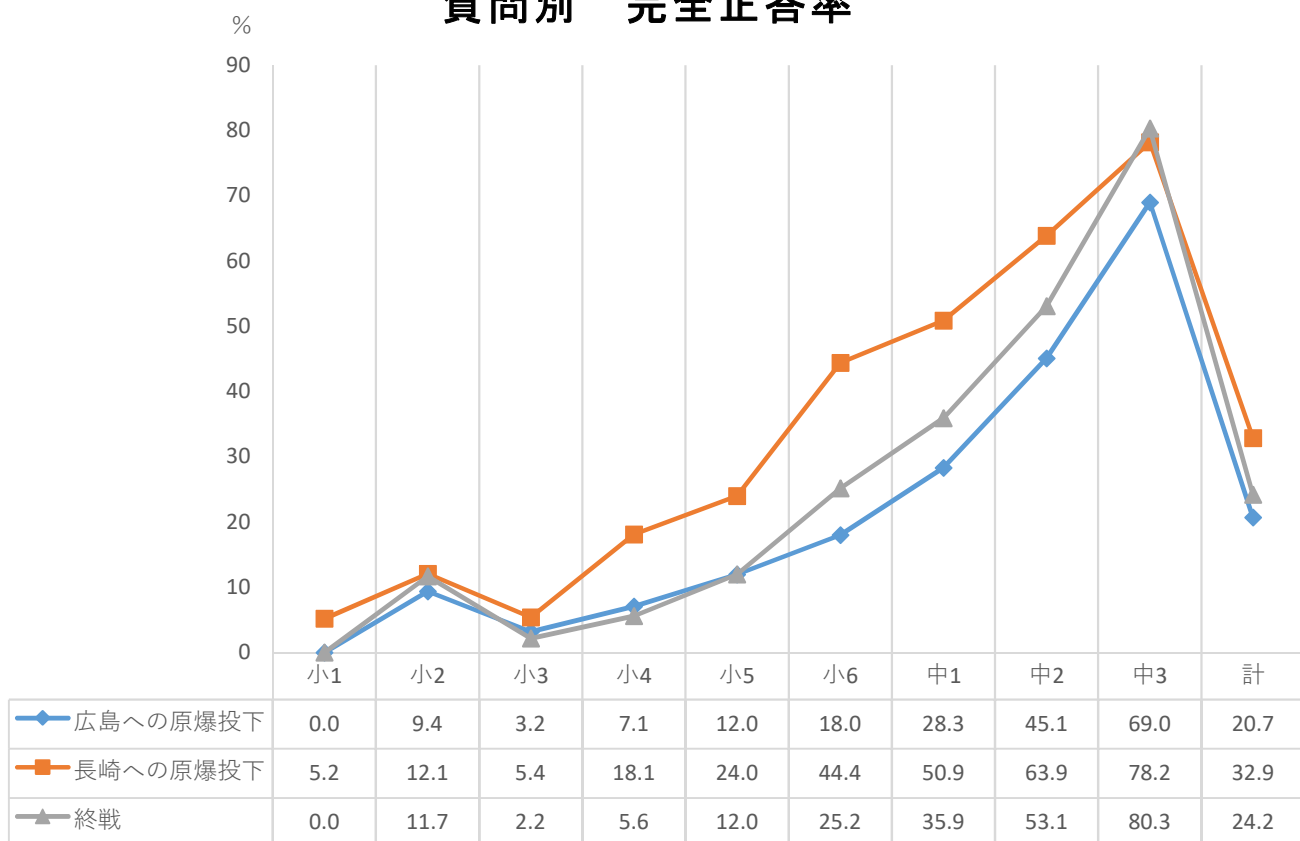
4. 質問別 完全正答率

各質問別に完全正答ができた割合を比較すると、次のとおり。

(上段：人数、下段：各学年回答人数に対する完全正答率)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
広島への原爆投下 年月日、時間正答	0	24	9	19	37	47	75	130	165	506
	0.0	9.4	3.2	7.1	12.0	18.0	28.3	45.1	69.0	20.7
長崎への原爆投下 年月日、時間正答	15	31	15	48	74	116	135	184	187	805
	5.2	12.1	5.4	18.1	24.0	44.4	50.9	63.9	78.2	32.9
第二次世界大戦終戦 年月日正答	0	30	6	15	37	66	95	153	192	594
	0.0	11.7	2.2	5.6	12.0	25.2	35.9	53.1	80.3	24.2

質問別 完全正答率

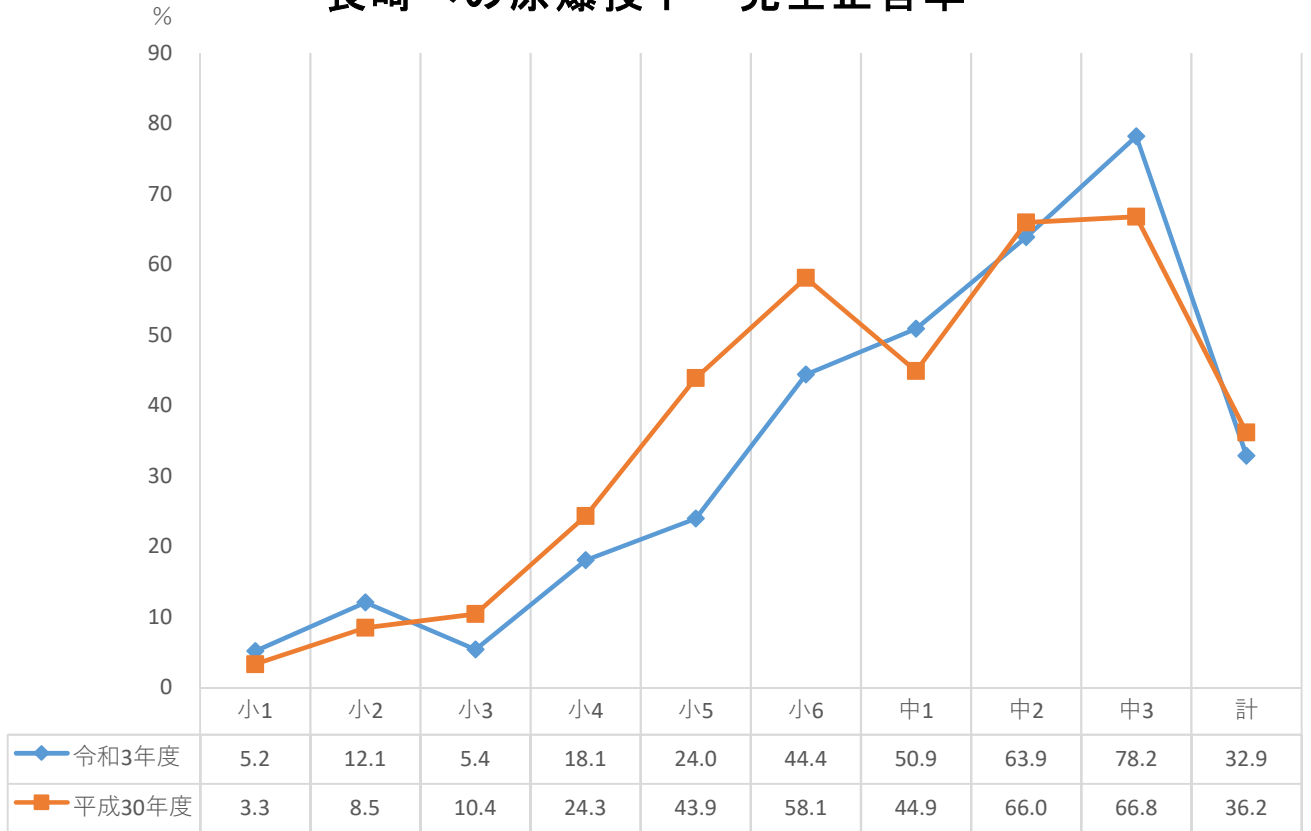


完全正答率を比較すると、3つの項目のうち、長崎への原爆投下についての正答率が高く、毎年学校で実施されている平和学習や平和集会、県民祈りの日（8月9日）に行うサイレンや黙とうの取り組みが定着しているものと考えられる。長崎への原爆投下と、広島への原爆投下及び終戦日の正答率に乖離があることも読み取れ、第二次世界大戦の一連の流れを学ぶ必要がある。

学年ごとに見ると、学年が上がるごとに正答率も高くなっている。

平成30年度調査の正答率と比較をしてみると次のようになる。

長崎への原爆投下 完全正答率



平成30年度と比較をすると、小学1年生と中学1年生、中学3年生については上回ったが、全体を通して下回る結果となった。特に小学5年生については、約20%も正答率が下がっている。

IV. 調査結果のまとめと今後の取り組み

1. 調査結果のまとめ

(1) 戦争・原爆に関する知識について

- ① これまで実施した調査において、第1～3回については、実施月が異なるため、単純に結果を比較することはできないものの、広島原爆投下、長崎原爆投下及び終戦日についての質問すべてにおいて、「わかっている」人の比率が平成30年度を下回る結果となった。
- ② この結果は、各学校において、被爆体験の出前講座などの平和学習、原爆パネルなどの掲示、平和集会、原爆資料館の見学、千羽鶴の作成などの平和教育に力を入れていることや、広島・長崎原爆の日に行うサイレンや黙とうの取り組みが定着しているが、近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、平和教育活動などが制限されたことにより、例年に比べて認識が低下したものと考えられる。
- ③ 長崎への原爆投下について、被爆地長崎の小中学生として意識が高く、「8月9日」と月日をわかっている人の割合が小学4～6年で73.5%、中学生では89.4%と高い比率である。一方で「1945年（昭和20年）」という年の認識が低い。
- ④ 長崎への原爆投下と、広島への原爆投下及び終戦日の正答率に乖離があり、第二次世界大戦の一連の流れとして学ぶ必要がある。

(2) 原爆被爆者から原爆や戦争の体験を聞く機会について

- ① 全体の71.5%が原爆被爆者から話を聞いたことがあると回答しており、年々減少傾向にある。これは身近に原爆被爆者が減っていることが要因の一つと考えられる。
- ② 原爆被爆者から話を聞いたことがあると回答した人のうち、どこで聞いたかについては、大きな差は見られなかった。

(3) 原爆資料館について

近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、平和教育活動などが制限されたことにより、例年に比べて低い比率となったと考えられる。

(4) 各小中学校に植樹している被爆クスノキ二世について

平成15年に植樹に立ち会った児童・生徒が在籍した平成18年度を上回り、学年ごとに見ると、小学1年生と中学1～2年生を除く学年で過半数を超える結果となった。

2. 今後の取り組み

身近に原爆被爆者が減り、直接原爆被爆者から戦争・被爆体験を聞く機会が減っている今、被爆の実相とその体験について後世に「継承」していくことが重要であり、今後も、子どもたちが戦争や被爆体験について学ぶ機会を設けていく必要がある。

さらに、戦争や原爆の悲惨さを学ぶ子どもたちが当事者意識を持ち、平和そして非核化のために自分ができることは何かを能動的に考え行動できるよう、導いていく必要がある。

① 学校との連携

学校へ被爆体験出前講座の案内や原爆パネルの貸出しを行うほか、戦争・原爆に関する資料を提供し、連携を図る。

② 平和のつどいでの取り組み

高校生1万人署名活動など平和活動を行う団体を招き、町民が活動を実際に目にする機会を提供する。

町子連主催「ピースキャンドルライトアップ」事業と今後も連携を図る。

③ 「被爆クスノキ二世」についての周知

爆心地から南東約800mに位置し、大きな被害を受けた山王神社の2本のクスノキは、焼けただけた山野の中でみごとに新しい生命の息吹を吹きかえし、被爆の復興から立ち上がった人たちに大きな感動を与えた。

時津町では平成15年に、被爆したクスノキの種から育てた苗を、文化の森公園、町立小中学校、町立保育所に植樹している。

核兵器のない平和な未来を願う気持ちの象徴として、「被爆クスノキ二世」の存在や意義を子どもたちに伝えていく。

④ 時津町関連の資料の提供

時津の原爆被爆者の声を収めた被爆体験DVD「6キロメートル あの日を語り継ぐ」（平成19年制作）の貸出し、町民に募集し作成した原爆体験記「あの日を忘れない」（平成7年発刊）の活用、被爆歌人として「斎藤茂吉短歌文学賞」をはじめ権威ある数々の賞を受賞した竹山広氏についての紹介など、身近な時津で起きた戦争・原爆の実相や悲惨さを知り、平和について考える機会を提供する。

⑤ 核兵器廃絶平和の町宣言の周知

時津町では平成6年に「核兵器廃絶平和の町宣言」を行っている。

毎年8月9日に開催する「平和のつどい」において参加者全員で宣言を唱和したり、町広報紙に掲載しているところだが、今後も町民に周知するため広報を行っている。